

自転車通行位置の整序化に対する 自転車ユーザーの意識

宇佐美 誠史¹・大谷 百花²・山中 英生³

¹正会員 岩手県立大学准教授 総合政策学部 (〒020-0693 岩手県滝沢市菓子 152-52)
E-mail:s-usami@iwate-pu.ac.jp

²非会員 株式会社薬王堂 (〒028-3621 岩手県紫波郡矢巾町大字広宮沢第3地割 426 番地)

³正会員 徳島大学大学院教授 社会産業理工学研究部 (〒770-8506 徳島県徳島市南常三島町 2-1)
E-mail: yamanaka@ce.tokushima-u.ac.jp

このファイルは土木学会論文集の原稿(和文)を作成するために必要な、レイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述しています。それと同時に、原稿そのものの体裁(A4)をとっているため、このファイルの中の文章や図表をこれから書こうとしている実際のものに置き換えれば、所定のフォントや配置の原稿を容易に作成することができます。

この要旨を含め、タイトル部分の幅は本文よりも左右 1 cm ずつ狭くします。要旨のフォントは明朝体 9 pt を用いてください。要旨の長さは 350 字以内です。要旨の後に 1 行空けて、キーワードを 5 つ程度、Times-Italic 10pt のフォントで書いて下さい。

Key Words: bicycle, awareness, traffic position

1. はじめに

日本において自転車は、通勤通学や買い物といった様々な場面や目的で、老若男女問わず様々な人々に利用されている。

しかし、日本では日常的に、安全かつ円滑な自転車通行が行われているとは言えない状況である。原則、自転車は車道左側通行という決まりではあるが、反対側を通行する自転車が見られること、歩道は状況によっては通行することができ、その場合は、双方向通行が認められている。

自転車の双方向通行の危険性に関しては、様々な調査が行われている。しかし、自転車双方向通行のリスクを過小評価し、リスクを冒す人に訴えかける施策はあまり行われていない。

そこで本研究では、自転車通行時にリスクを取る人・取らない人両者に対して、仮定した施策や心理状況下において、どのように反応するかを見るために、アンケートを実施した。どのようにアプローチすると、正しい通行方法を意識してもらえるかどうかを分析する。これにより、自転車利用時に、正しい通行方法が選択されるた

めに必要なことを明らかにしたい。

2. 調査方法

以下のように、WEB を利用したアンケートを調査会社に委託して実施した。

○日時：平成 30 年 1 月 10 日～1 月 11 日

○調査対象：調査会社にモニター登録している人から 312 人(男性 191 人、女性 121 人)を抽出

○調査内容：自転車の交通ルールの知識、自転車利用時に経験した危険、自転車利用のリスクや安全意識、交通ルールを守るか否かの仮定質問、自転車ルール変更時の賛否について、ポスターによる動機付け

回答者の年代を図-1 に示す。モニター登録者の年齢分布の関係で、20 歳から 60 歳までの回答となっている。回答者の地域分布を図-2 に示す。関東地方が 40%、近畿地方が 28%と、人口の多いところに住んでいる方の回答が多い。なお、シティサイクルとスポーツサイクル利用者が、半々となるように、アンケートをおこなった。

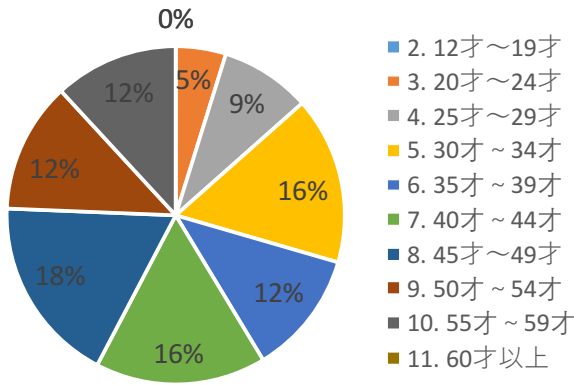


図-1 回答者の年齢

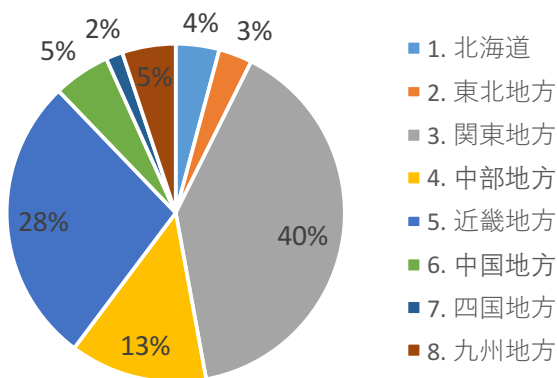


図-2 回答者の居住地

3. 日常の自転車通行方法

日常、自転車でも道路を通行するとき、一番多く通行している位置を尋ねた結果を図-3に示す。これを見ると、今回の回答者の3割は進行方向に対して左側歩道を、65%は車道の左側を通行していることがわかる。右側を通行しているとの回答はほとんどなかった。

次に、普段、自転車利用時に、よくしている行動について尋ねた結果を、図-4に示す。これを見ると、よくする、たまにすると回答している項目の割合を見ると、右

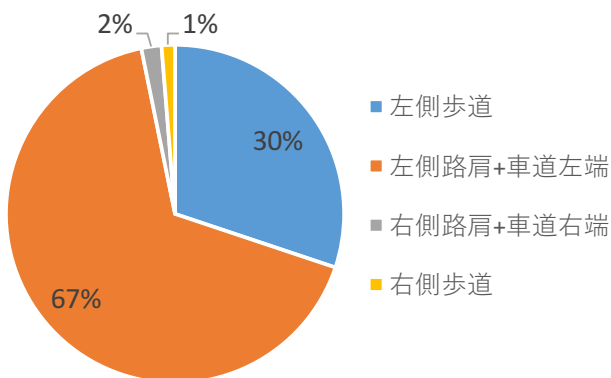


図-3 自転車によく通行している位置

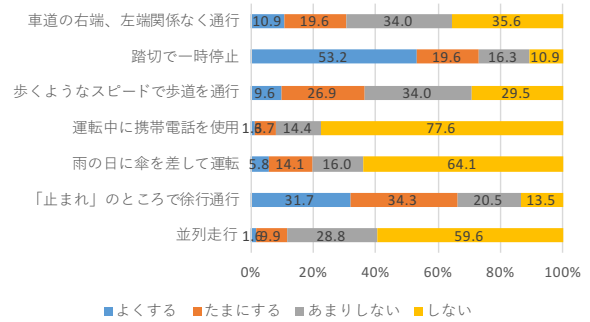


図-4 自転車利用時によくする行動

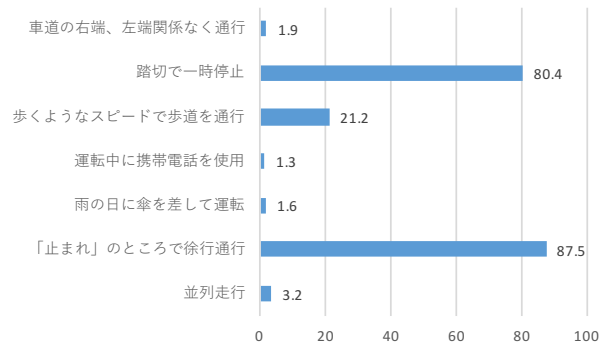


図-5 正しいと思う自転車の交通ルール

左関係なく通行しているのが3割、踏切で一時停止をしているのは5割、歩くようなスピードで歩道を通行しているのが4割、運転時の携帯電話使用が1割、傘差し運転が2割、止まれの標識で徐行しているのが7割、並列走行が1割という結果であった。図-3で、自転車の通行位置が正しい人は多いものの、この結果を見ると、正しい通行ルールを守られていない人が多いことがわかる。

同じ項目を使って、正しい交通ルールについて尋ねたところ、図-5の様な結果となった。このグラフは、それぞれの項目について、正しいと回答した人の割合を示している。踏切の一時停止が正しいという人が2割、歩道を歩くようなスピードで通行が正しいという人が2割、引っかけ問題のような感もあるが、「止まれ」標識のあるところで徐行が正しいというのが9割という結果となった。踏切では、一時停止の義務があり、「止まれ」の標識のところでは一時停止の義務がある。

4. おわりに

本研究では、自転車の通行方法の整序化に対する自転車利用者の意識や、政策などを仮定した状況下での反応を見ている。引き続き、結果の分析を進める。

謝辞：本研究はJSPS 科研費 16H02369 の助成を受けたものです。